

近未来コンクリート研究会
R元年度 第2回 RC 構造物の延命化のための維持管理技術協議会 (M 協議会)
議事メモ

日時：令和元年8月21日 13:30~15:15

場所：近未来コンクリート研究会 会議室

議事メモ：以下の通り

○特別講演

題目 「今さら聞けない混和剤の役割」

講師 檜垣誠氏 (株式会社フローリック 技術本部技術部長)

○議事メモ

- ・橋梁の点検の杜撰さが目立つ。点検結果と現状が大きく異なる事例がある。点検スキルのある人材ではなく、図面作成スキルのある人材が点検業務をこなしているケースがあるのではないか。
- ・点検業務を受注した際、基本は近接目視調査を行うのだが、明らかに近接できない立地条件であっても橋梁点検車や足場設置等の費用を見てももらえないケースが多い。
- ・点検業務において近接目視を行った結果、コンクリートの浮きが認められた場合には、浮いている箇所をはつり落とし、最低限の防錆処理までを実施するようにしている。
- ・予防保全に対して費用をかけるという概念はまだ浸透していない。
- ・これまで費用化されていない予防保全に費用をかけるためには説明責任が伴う。それを避けるために先延ばししている側面もある。
- ・管理者が残存供用年数を〇〇年と定めることは困難で、たいていは使えなくなるまで供用し続ける。
- ・現状の点検請負者の数（コンサルタント数、技術者数）を考えると、点検対象構造物の数が膨大すぎて物理的に対応不可能な状態。
- ・発注者がある程度自前で点検を実施する事例もある。
- ・国やNEXCOなどが管理する構造物は自前で点検、維持管理できるが、県や市町村などの地方自治体では温度差が大きくなる。
- ・小自治体が管理する構造物はもともと施工精度の低いものも含まれている。もともと施工が悪い構造物と適切に施工された構造物とでは、同じ劣化を受けた場合でも性能低下に対する影響度合いが大きく異なる。小自治体はそのような不利な条件を抱えている場合がある。

○特別講座のテーマ選出

- ・ドローン技術の点検業務への適用
- ・NEXCOの視点からみた維持管理のありかた

以上